

### 3 睦合館跡の年代観と周辺城館跡との関係について（第69～72図）

ここでは、睦合館跡の構造と年代観について触れた上で、周辺館跡との関係について考え、結びに変えたい。

#### (1) 調査区外の施設について

今回の発掘調査では、睦合館跡の主郭ほぼ全域と、土塁、空堀、曲輪の一部が調査対象区となり、その調査結果についてはこれまで述べたとおりである。ここでは、調査区外の曲輪群、搦手の施設について触れたい。なお、ここでは調査区外の遺構についても便宜上第69図のように番号をつけた。

曲輪群aの調査区外には、郭450・460の規模の大きな曲輪と、南端部に郭470の小さな平場が作られている。現在の睦合小学校裏からのつづら折りを登ると、最大の郭460に続く。郭460の上段には、曲輪の中では最大の規模となる郭450がある。郭450には現在秋葉神社が祀られている。曲輪群bの調査区外には、郭380の下段に郭480・490が配されている。いずれも南西端部に作られたものであり、先端部の曲輪ほど面積は狭くなる。長流寺脇からのつづら折りの道を登ってくると、途中で道は2つに分かれるが、これはいずれも郭490に続くものである。郭490の先端部には、小規模ではあるが土塁状の土盛がある。

搦手側にはこれまで述べてきたように、三重の土塁と空堀がある。これより北側は平場となっているが、この平場には、三重の土塁・空堀と直角に北にのびる土塁が2～3本平場を取り囲むように築かれている。何らかの施設があったことが考えられる。

一方、睦合館の眼下には、寒河江川に沿って六十里越街道が迫っている。第69図は、明治20年代に作られた睦合村の地籍図である。地籍図からも分かるように、この六十里越街道を挟んで両側には方形の区割りが見られる。「台」という字名も残っており、家臣団の屋敷があったとも推測できる。

#### (2) 睦合館跡の年代観と支配体制について

睦合館は、文献や資料には現れない城館跡で、館主についても不明である。ここでは、寒河江市白岩以西の寒河江川左岸と範囲を広げ、領主の変遷などにも触れながら、睦合館の年代観について考えていきたい。

まず、睦合館の上限については、調査結果からの分析にとどめたい。S F 510土塁に設定したトレンチの土壌サンプルからは、先に述べたように西暦1,500年という分析結果が得られた。この年代測定結果と出土した輸入陶磁器の青磁の編年は若干溯るが、白磁の編年は合致している。本館の修復の可能性も考慮するとこの1,500年前後という年代が必ずしも上限とは断定できないが、16世紀初めには館跡として機能していたものと考えられる。当地域はこの時期「熱塩郷」と称され、白岩氏の支配下にあった。応仁二年（1468）7月2日、「出羽北寒河江あつしほ（熱塩）郷瀧之在家ノ旧家ヲ国分河内ニ交付ス」と伊達家の有力家臣である国分家の『国分文書』に記されている。白岩氏は、現在の寒河江市白岩から西川町岩根沢までの寒河江川左岸について領主権を確立しており、本館も白岩氏の支配下にあったものと推測される。この時期は前節の陶磁器分類のⅠ期に相当する。

天正12年（1584）、寒河江大江氏が山形城主最上義光との戦いに敗れた。これ以降、西川町全域は最上氏の支配となる。寒河江川左岸は白岩領となり、最上義光の甥に当たる白岩備前光広の治政下に組み入れられる。睦合館の東に隣接する長登楯は、天正年間白岩備前守光広の楯とされていることから、本館も白岩備前守光広の館、あるいは家臣の館と考えられる。元和元年（1614）、光広は庄内松根城（現櫛引町松根）に移り、最上家も元和8年（1622）改易となる。睦合館もこれに伴い最上家の支配からは外れることとなるが、初期伊万里の出土状況などから何らかの形で1650年前後まで居館として成立していたものとする。この時期を前節ではⅡ期として取り扱っており、これ以降居館として継続することはなかったものと推測できる。

### (3) 戦国期の周辺館跡について

第2図の遺跡位置図からも分かるように、寒河江川沿いには数多くの中世城館址が確認されている。寒河江川右岸の吉川には鎌倉期に大江氏が本拠を構え、大江氏を中心に西村山の支配が展開されていった。その後戦国期には庄内の武藤氏に対する備えとして、大江氏や最上氏により多数の城館が築かれたものと考えられている（北畠教爾：山形県中世城館遺跡報告書第2集）。このうち、睦合館のように大規模な堀を重視した構造を持つ城館は、比較的新しい形であり、最上氏により築かれたものが多い。ここではこのような城館に注目し、睦合館との比較検討を行いたい。

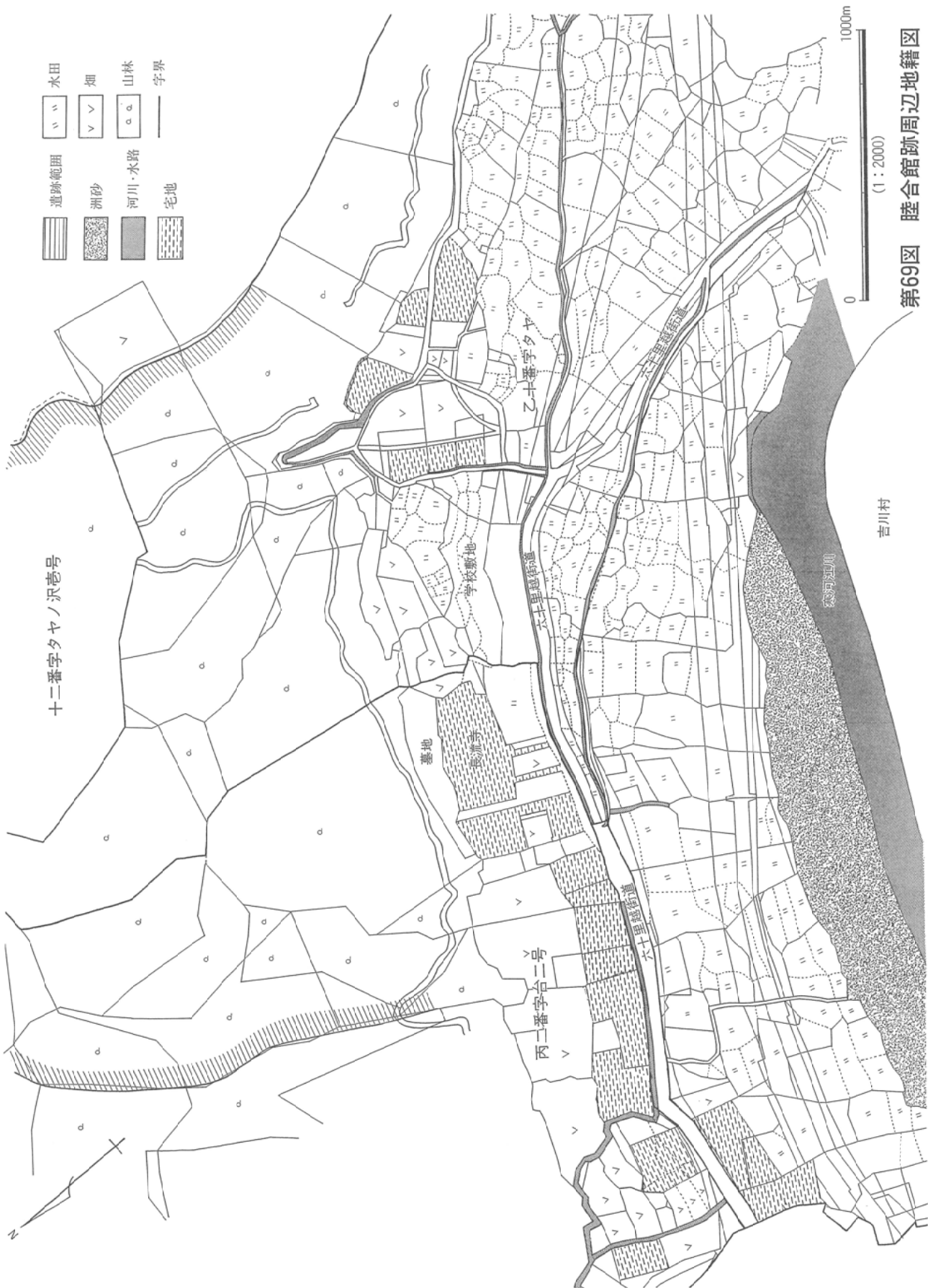
**沼ノ平館（第71図）** 西川町綱取字上ノ山（第2図-14）に所在する。寒河江川の左岸に位置し、東側を寒河江川の支流である綱取川が南流する。南側に集落が開ける舌状台地上に位置する。主郭は馬の背状の峯に築かれ、面積は10a程である。主郭は高さ1.6m、幅2mの土塁により囲まれている。主郭部南側には深さ1.5～3mを測る二重の空堀で尾根が分断されている。軍記類では東海林隼人佐昌種の居城とし、その年代を天正期以降としている。

**宮内楯（第71図）** 寒河江市宮内、旧六十里越街道の北側に位置する。（第2図-32）。標高200m前後の舌状台地に立地する。主郭の南側には小規模な曲輪群を配置し、主郭の北側には大規模な堀切で尾根を遮断している。楯主は不明であるが、築城時期は戦国期とされている。

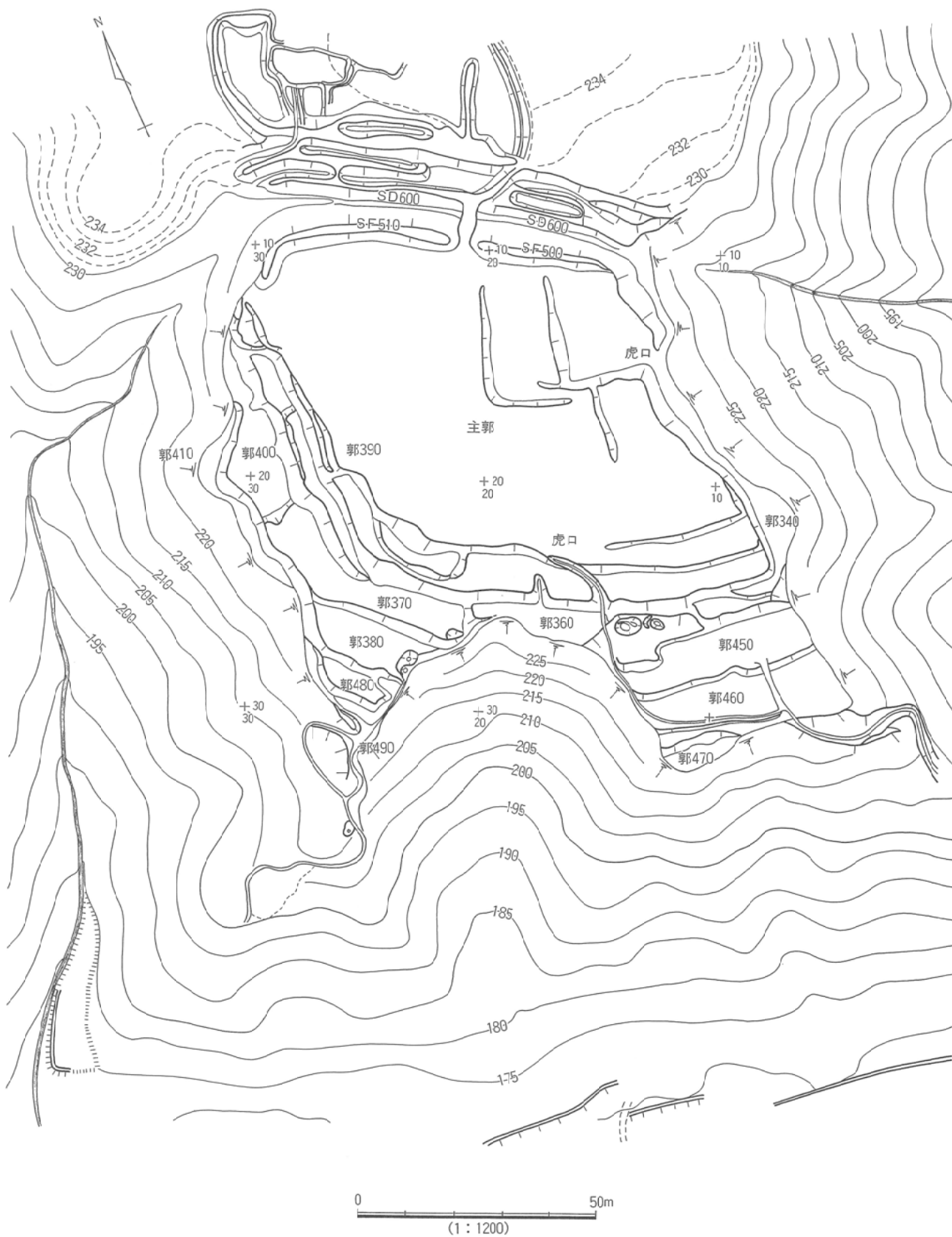
**東海林楯（第71図）** 寒河江市幸生、寒河江川の支流である熊野川沿いに位置する。主郭は東西30m、南北80m規模で、東側には帯曲輪が廻る。主郭の南西部一帯に横堀が廻り、堀の上部には土塁が築かれている。東海林康広により戦国期に作られたとされている。

これらの3つの城館址はいずれも睦合館より規模は小さいものであるが、大規模な横堀により尾根続きを遮断するという共通点が見られる。このほかにも、睦合館の東に隣接する長登楯は開墾により破壊が著しいものであるが、主郭の南側には2～3段の曲輪群を配置し、主郭の北側は堀切で尾根続きを遮断している状況が観察できる。これらは、いずれも戦国期に造られた城館址で、横堀の発達を指摘できる例である。

西村山の城館址は天正12年に大江氏の滅亡以降、最上氏により庄内武藤氏に対する備えのために修復されているものが多い。睦合館跡も16世紀後半以降、最上氏の支配下になり手を



第69図 陸合館跡周辺地籍図



第70図 睦合館跡縄張り図



加えられ、現存する形となって残ったものであろう。しかし、他の城館址との関係、遺物の流通経路などまだまだ不明確な点が多く、改めて整理する機会を持ちたい。

最後に、寒河江川流域と同様に、最上地方に流れる鮭川、最上川沿いにも横堀の発達する城館址が多数存在する。これらも戦国期の末最上氏により手を加えられたものが多く、参考として例示したい。

**八向館** 新庄市大字本合海、最上川と新田川の合流地点の丘陵先端部に位置する。南側は断崖絶壁で最上川に直下する。三重堀で尾根続きを完全に遮断している。主郭にはわずかに土塁も残る。戦国期に築城されたと考えられる。

**京塚館** 鮭川村大字京塚、舌状丘陵部の先端に位置する。主郭南側には小規模な曲輪を数段配し、主郭北端部には土塁が築かれている。尾根続きは2条の堀切で遮断している。睦合館よりも小規模ではあるが、構造はよく似ている。

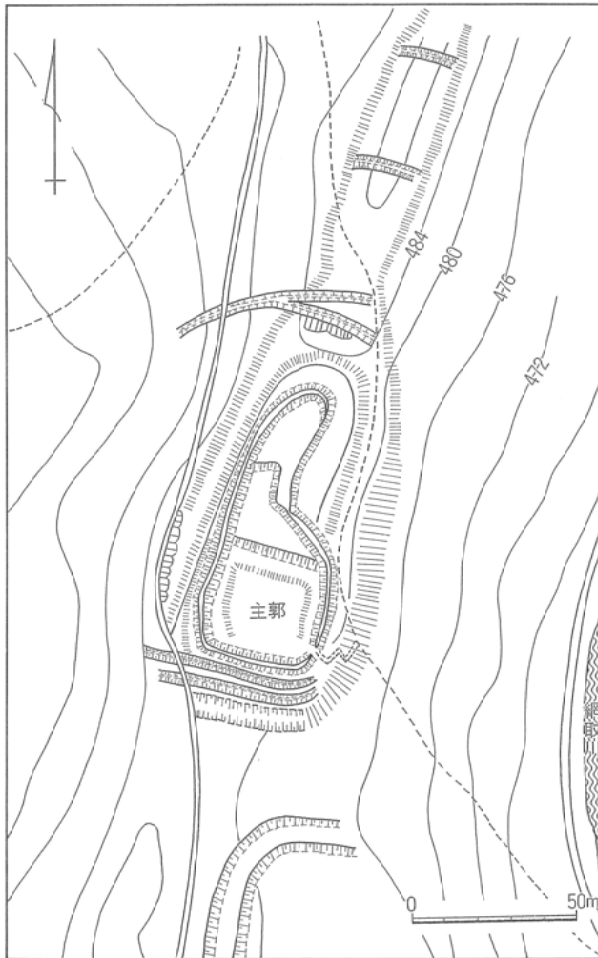
**庭月館** 鮭川村大字庭月、鮭川の右岸段丘上に位置する。主郭の南・西側には空堀（堀切）で地続きの平坦地を遮断している。主郭の西側には大規模な土塁をもうけている。空堀・土塁の規模は睦合館のS F 500土塁・S D 600空堀とほぼ同じである。

**鮭延城** 真室川町大字内町、真室川の東の台地上に位置する。この地の国人、鮭延氏の本拠で、睦合館よりも大規模な城である。主郭南東の尾根続きは三重の堀切と大きな土塁で遮断し、北東部、南西部には小規模な曲輪を何段にも構成している。

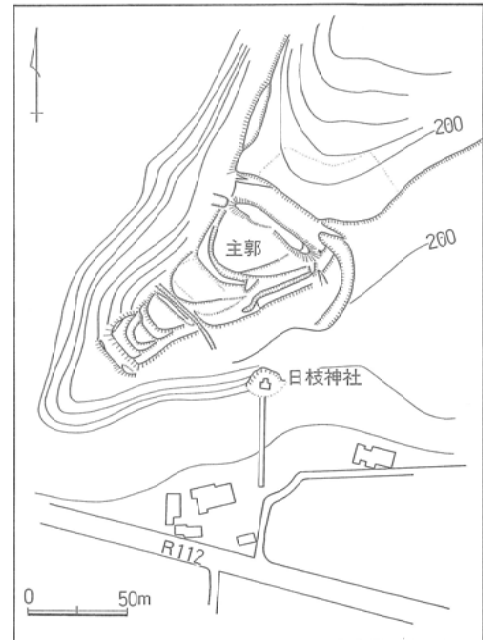
**楯山** 戸沢村大字古口、角川と最上川の合流地点、舌状丘陵の先端部に位置する。主郭の南側尾根続きを三条の堀切と土塁で遮断している。

#### <参考文献>

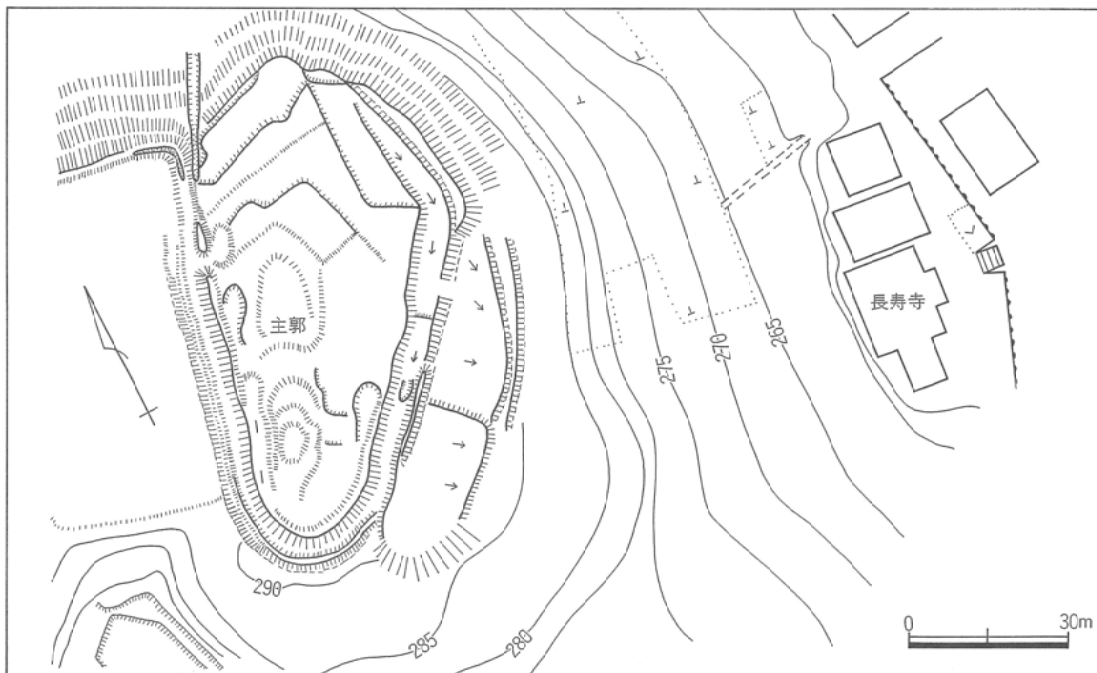
- 眞壁 建 他 1996「横軸楯跡・水沢館跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第39集  
 須賀井新人 他 1997「荒川2遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第43集  
 堀内 秀樹 1998「消費遺跡出土陶磁器類の編年について」東北中世考古学会第4回研究大会  
 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」貿易陶磁研究No.2  
 上田 秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」貿易陶磁研究No.2  
 小野 正敏 1982「15～16世紀の染付、皿の分類と編年」貿易陶磁研究No.2  
 瀬戸市史編纂委員会 編 1993「瀬戸市史陶磁史篇四」  
 山形県教育委員会 編 1996「山形県中世城館遺跡調査報告書第2集（村山地域）」  
 山形県教育委員会 編 1997「山形県中世城館遺跡調査報告書第3集（庄内・最上地域）」  
 青森県八戸市教育委員会 編 1993「根城一本丸の発掘調査―」  
 新宿区厚生部遺跡調査会 編 1982「内藤町遺跡」  
 扇浦 正義 著 1993「江戸発掘」  
 国土調査 1976「土地分類基本調査 左沢」  
 仙台市教育委員会 編 1983「仙台市文化財調査報告書第58集 今泉城跡」  
 西川町史編纂委員会 編 1995「西川町史」  
 中世土器研究会 編 1995「概説中世の土器・陶磁器」真陽社  
 石井進・大三輪龍彦 編 1989「よみがえる中世3 武士の都鎌倉」平凡社



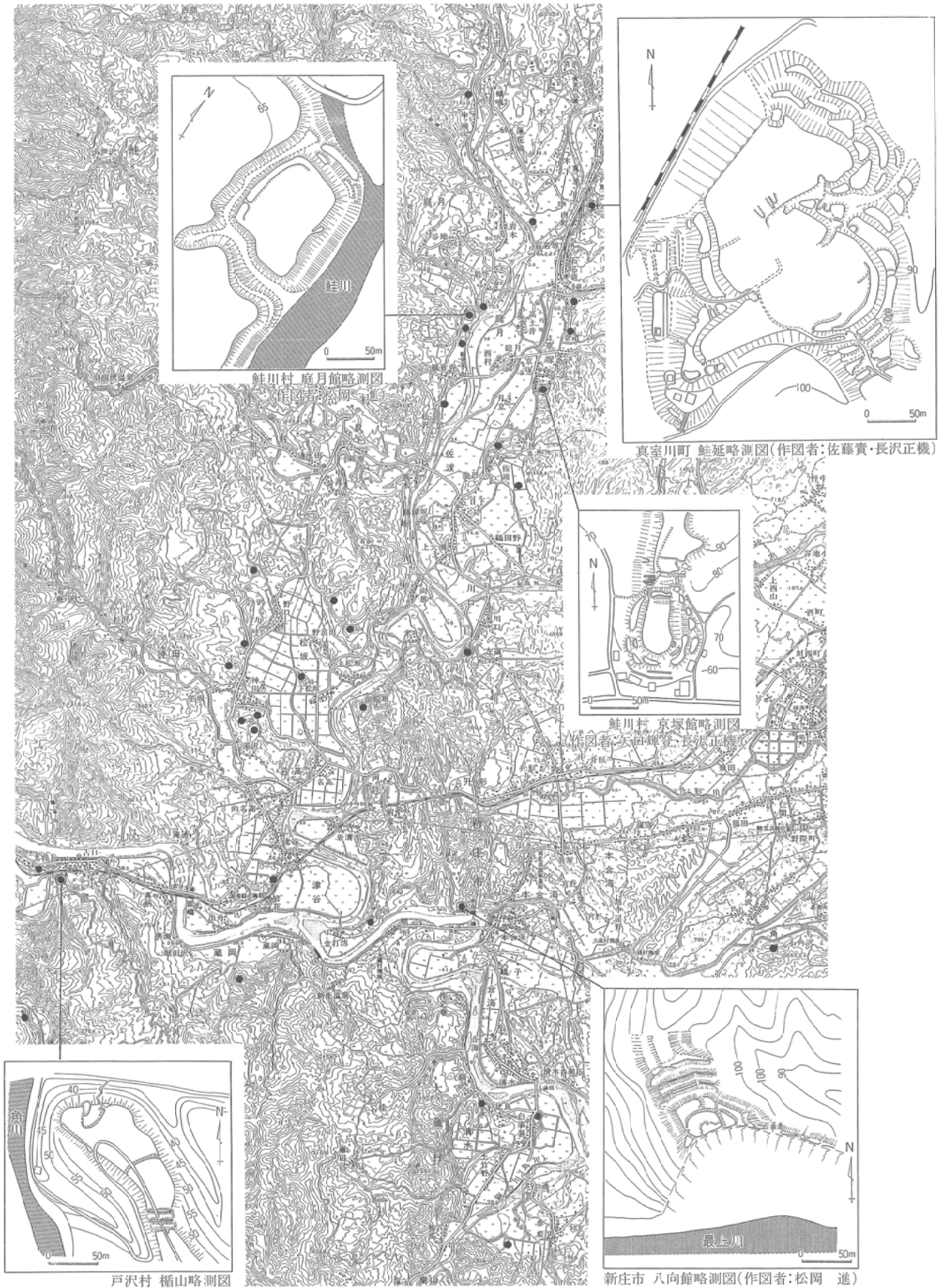
西川町 沼ノ平館(作者:鈴木聖雄)



寒河江市 宮内楯略測図(作者:高橋慎示)



寒河江市 東海林楯略測図(作者:高橋慎示)



第72図 最上郡最上川・鮭川周辺館跡